

目次

イントロダクション

- 1 目次
- 2 2026年度版のポイント
- 3 理念体系
- 4 あゆみ
- 5 数字で見る日清オイリオグループ
- 6 ネットワーク

価値創造ストーリー

- 7 価値創造モデル
- 8 日清オイリオグループの強み
- 9 BtoB事業における“勝ち筋”

日清オイリオグループビジョン2030

- 10 目指す姿
- 11 重点領域（マテリアリティ）
- 12 CSV目標達成に向けて
- 13 中期経営計画「Value UpX」

■編集方針

「統合報告書2026」は、日清オイリオグループの中長期的な価値創造について財務・非財務の両面からお伝えする媒体として発行しています。株主・投資家を中心とするステークホルダーの皆さまに、長期的な企業価値創造ストーリーをご理解いただければ幸いです。

■参照ガイドライン

- ・IFRS財団「国際統合報告フレームワーク」
- ・経済産業省「価値協創ガイダンス2.0」

■報告対象期間

2025年4月1日～2026年3月31日
一部に当該期間外の取り組みが含まれています。組織・役職名は2026年9月末現在のものを記載しています。

■報告対象範囲

日清オイリオグループ株式会社と連結子会社（国内・海外）を含むグループ全体を対象としています。ただし、一部の取り組みについては、日清オイリオグループ株式会社単体を対象としています。

14 社長メッセージ

20 財務担当役員メッセージ

戦略

事業戦略

- 23 グローバル油脂・加工油脂
- 25 油脂・油糧および加工食品・素材
- 26 特集：営業スタイルの変革を起点とする構造改革
- 28 ファインケミカル

戦略の実現に向けて

- 30 人材マネジメント
- 32 研究開発と知的財産
- 34 サプライチェーン／サステナビリティ
- 38 デジタル・IT

コーポレートガバナンス

- 39 経営体制
- 41 社外取締役登壇
- 45 監査役メッセージ
- 46 コーポレートガバナンス体制
- 47 取締役会の実効性評価
- 48 役員報酬制度
- 49 役員の指名・選任／政策保有株式に関する取り組み
- 50 IR活動によるエンゲージメント強化
- 51 リスクマネジメント
- 52 コンプライアンス

業績・企業情報

- 53 財政状態および経営成績等の分析（MD&A）
- 55 11カ年財務ハイライト
- 56 CSV目標と実績
- 59 会社情報

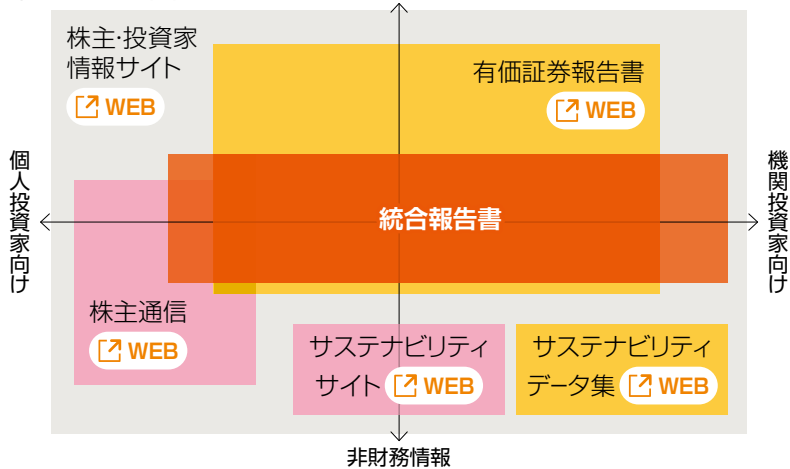
■報告書中での表記について

日清オイリオグループ株式会社単体を「当社」、もしくは「日清オイリオ」、日清オイリオグループ株式会社と連結子会社（国内・海外）を含むグループ全体を「当社グループ」としています。また、以下の会社については一部で略記を用いています。

〈会社名／略記〉

ISFグループ
Intercontinental Specialty Fats Sdn.Bhd./ISF
Intercontinental Specialty Fats (Shanghai) Co., Ltd./ISF上海
Intercontinental Specialty Fats (Italy) S.r.l./ISF Italy
Nisshin OiliiO America Inc./NOA
T.&C. Manufacturing Co., Pte. Ltd./T&C
PT Indoagri Daitocacao/IADC
Industrial Quimica Lasem, S.A.U./IQL
IQL-USA Inc./IQL-USA
日清奥利友（上海）国際貿易有限公司/NOST

本レポートの位置づけ



2026年度版のポイント

Value UpXで目指す姿の実現に向けた再始動

統合報告書2026の読みどころ

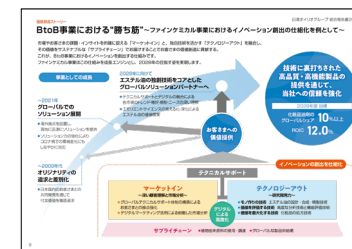


社長メッセージ [P.14]

「第二の創業」の決意のもと、国内油脂・油糧事業における「**営業スタイルの変革を起点とする構造改革**」を実行します。「**マーケットイン×テクノロジーアウト×サプライチェーン**」の掛け合わせによる成長戦略を軸に、グローバルトップレベルの油脂ソリューション企業への飛躍に向けた道筋を語ります。

BtoB事業における“勝ち筋” [P.9]

当社グループのBtoB事業における“勝ち筋”を、ファイナンスケミカル事業における**イノベーションの仕組化**を例として紹介します。



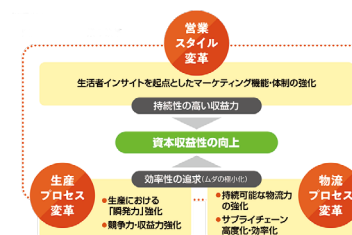
財務担当役員メッセージ [P.20]

油脂コストの高騰や中東情勢など不透明な事業環境の中、**ROICマネジメントの高度化**や**資本圧縮**、**900億円の成長投資**など、**資本収益性向上**を核とした財務戦略とともに、株主還元の方針や投資家とのエンゲージメントへの取り組みもあわせてお伝えします。



営業スタイルの変革を起点とする構造改革 [P.26]

構造的なコスト変化やオイルバリューの高騰など、一時的とは言えない環境変化が生じています。「プロダクトアウト」の思考から脱却し、「**マーケットイン**」の思考を備えた**営業集団へ、収益構造そのものの変革**についてお伝えします。



理念体系

経営理念

1. 企業価値の追求と、
その最大化を通じた人々・社会・経済の発展への貢献
2. 「おいしさ・健康・美」の追求をコアコンセプトとする創造性、
発展性ある事業への飽くなき探求
3. 社会の一員としての責任ある行動の徹底

コアプロミス

日清オイリオグループは、健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)を提案・創造いたします。そのために私たちは、無限の可能性をもつ植物資源と、最高の技術によって、あなたにとって、あったらいいなと思う商品・サービスを市場に先駆けて創り続け、社会に貢献することを約束いたします。

コーポレートステートメント

“植物のチカラ”[®]

Vision

私たちは、“植物のチカラ”と“油脂をさらに究めた強み”で、食の新たな機能を生み出すプラットフォームの役割を担います。そして多様な価値を創造し、“生きるエネルギー”をすべての人にお届けする企業グループになります。

経営理念

Vision
2030年に目指す姿

Values

当社グループが目指す姿を実現するために、
社員一人ひとりが大切にし、行動の基本とすべき価値観

Values

真摯な
姿勢

つながる

究める

切り拓く

しなやかに
強く

5つのValuesについて

当社グループは1907年の創立以降、製品の開発・生産、品質、お客さまへの対応などすべてにおけるきめ細やかな「真摯な姿勢」と、モノづくりを起点に発展してきた企業グループであるからこそ根付いた、人が「つながる」チームワークと組織力を大切にしてきました。これらに加えて、当社グループが2030年に目指す姿(Vision)に至るために、次の考え方をこれまで以上に大切にします。

- 当社グループの競争力の源泉となる強み、すなわちコアコンピタンスである油脂を「究める」こと
- 多様な価値を創造するためには、未知の事業領域や、展開地域、技術領域に挑戦し、新しい領域を「切り拓く」こと
- 変化が激しい時代に向かっていくなかで、変わらなければならないものと変わってはいけないものがある。
すなわち、変化を受け入れて変わる姿勢と当社の良さを変えない姿勢を併せ持つ、「しなやかに強い」適応力
- 様々なネットワークとの「つながり」を活かし、これまでよりもっとお客さまの近くでビジネスを展開すること

「真摯な姿勢」「つながる」「究める」「切り拓く」「しなやかに強く」の
5つのValuesを行動の基本とします。

日清オイリオグループ行動規範 [WEB](#)

理念を実践していくための行動指針

イントロダクション

あゆみ

2025年度売上高 **5,542**億円

日清オイリオグループは、これまで食生活の変遷に合わせて、人々の食卓においしさと健康をお届けしてきました。

国内では、多様化するニーズに応え、新たな市場を創出しています。海外では主に加工油脂とファインケミカルの領域においてお客さまの商品の価値向上につながるソリューションを提供しています。

今後も「油脂を究める」という強みとともに多様な価値の共創に挑み続け、グローバルトップレベルの油脂ソリューション企業への飛躍を目指していきます。

■ グローバル油脂・加工油脂
■ 油脂・油糧および加工食品・素材
■ ファインケミカル

1970年～ 新商品・新事業展開の開始

1970年代に中鎖脂肪酸油「O.D.O」を発売するなど、ファインケミカル事業に参入しました。また、1996年には日本初のオリジナルブランド「BOSCOオリーブオイル」を発売しました。食用油にとどまらない新たな事業展開を推進するとともに、日本にオリーブオイルという新たな食文化を根付かせました。



■ 国内売上高
■ 海外売上高

2000年～ グローバル事業を推進

2002年に日清オイリオグループが誕生。2003年には特定保健用食品「ヘルシーリセット」を発売しました。さらに2005年にはISF(マレーシア)、2009年には大東力カオへ資本参加をしました。食用油では高付加価値な商品展開を強化する一方で、加工油脂領域で国内外の事業拡大を推し進めました。



大東力カオ



2010年～ グローバル展開の加速

2011年にIQL(スペイン)に、さらに2018年にはISF Italyに資本参加しました。また、2015年には健康志向に応え「日清アマニ油」「日清ヘルシーオフ」を発売。グローバル展開を一層加速させるとともに、健康性、簡便性など多様なニーズに応える商品展開を推進しました。



2020年～ 多様な価値共創への挑戦

2021年に機能性表示食品「日清MCTオイルHC」、2024年には「日清ヘルシークリア」を発売しました。2023年には北米にNOAを立ち上げるなど、海外における新市場開拓を強化するとともに、共創の場である「インキュベーションスクエア」で国内外のパートナーとの価値共創の取り組みを推進しています。



1907年創業

- 1907年「日清豆粕製造株式会社」創立
- 1924年に日本初のサラダ油「日清サラダ油」を発売

数字で見る日清オイリオグループ

利益成長率

9.1 %

営業利益の
10年間の年平均成長率
2015-2025年度

資本効率性

5.1 %

ROE
2025年度
(土地売却益等控除後)

国内マーケットシェア

No.1※

食用油のシェア
2025年度
(販売量)

※日刊経済通信社調べ

グローバル展開

主要
拠点数 **20**社

製品
流通国数 **61**か国

トレーサビリティ

94.3 %

パーム油の農園までの
トレーサビリティ
2025年度

売上高・営業利益のセグメント構成比

ファインケミカル

2.8 %

その他・調整

1.9 %

ファインケミカル

9.2 %

その他・調整

△2.5 %

グローバル油脂・
加工油脂

25.0 %

グローバル油脂・
加工油脂

28.0 %

油脂・油糧および
加工食品・素材

70.3 %

油脂・油糧および
加工食品・素材

65.3 %

連結売上高

5,542 億円
(2025年度)

連結営業利益

170 億円
(2025年度)

イントロダクション

ネットワーク

■ グローバル油脂・加工油脂
■ 油脂・油糧および加工食品・素材
■ ファインケミカル
■ その他

欧州

拠点 / 機能	生産	販売	研究開発
Intercontinental Specialty Fats (Italy) S.r.l.	●	●	
Industrial Quimica Lasem, S.A.U.	●	●	●

東南アジア

拠点 / 機能	生産	販売	研究開発
Intercontinental Specialty Fats Sdn. Bhd.	●	●	●
T.&C. Manufacturing Co., Pte. Ltd.	●	●	
PT Indoagri Daitocacao	●	●	
日清オイリオグループ株式会社バンコク駐在事務所		●	

中国

拠点 / 機能	生産	販売	研究開発
Intercontinental Specialty Fats (Shanghai) Co., Ltd.		●	
上海日清油脂有限公司		●	
日清奥利友(中国)投資有限公司		●	
日清奥利友(上海)国際貿易有限公司		●	●

日本

拠点 / 機能	生産	販売	研究開発
日清オイリオグループ株式会社	●	●	●
日清商事株式会社		●	
株式会社日清商会		●	
日清物流株式会社		●	
大東カカオ株式会社	●	●	●
セッツ株式会社	●	●	●
株式会社NSP		●	
株式会社マーケティングフォースジャパン		●	
日清ファイナンス株式会社		●	

北米

拠点 / 機能	生産	販売	研究開発
Nisshin Oillio America Inc.		●	
IQL-USA Inc.		●	

日清オイリオグループ

(油脂・油糧および加工食品・素材、ファインケミカル)

主要商品

油脂・加工油脂、ミール、
機能素材・食品、調味料、
大豆素材・食品
化粧品・トイレタリー原料、
化学品、植物性工業油

国内事業所一覧

大阪事業場、横浜磯子事業場（横浜磯子工場）、名古屋工場、堺工場、水島事業場（水島工場）、
インキュベーションスクエア（研究所）、北海道支店、東北支店、関東信越支店、東京支店、
東海北陸支店、大阪支店、中四国支店、九州支店、盛岡営業所、郡山営業所、新潟営業所、
長野営業所、首都圏営業所、静岡営業所、北陸営業所、四国営業所、岡山営業所、鹿児島営業所

国内生産4拠点

① 横浜磯子事業場
敷地面積
約233,100㎡



② 名古屋工場
敷地面積
約98,800㎡



③ 堺工場
敷地面積
約28,800㎡



④ 水島事業場
敷地面積
約110,000㎡



ISFグループ

(グローバル油脂・加工油脂)

主要商品

加工油脂（チョコレート
ト用油脂）、業務用食
用油、加工用油脂

主要グループ会社

ISF Italy、ISF上海

大東カカオグループ

(油脂・油糧および加工食品・素材)

主要商品

チョコレート関連製品

主要グループ会社

T&C、IADC